

番号	2 - 18	申請者	看護師 濱本 未来
<p>【審査申請課題】</p> <p>神経筋難病患者で長期寝たきり患者の胃瘻チューブ周囲の皮膚トラブル軽減について</p>			
<p>【審査課題の概要】</p> <p>A病棟は神経筋難病患者を対象とした療養病棟である。神経筋難病患者は、疾患の進行に伴い嚥下機能が低下し、経口摂取が困難となるため、多くの患者が胃瘻造設を行っている。</p> <p>A病棟では、全体の約7割にあたる26名が胃瘻造設を行っている。そのうち約半数の患者が胃瘻部に皮膚トラブルを起こしている。皮膚トラブルの現状として、瘻孔周囲の発赤や肉芽の形成、びらんや潰瘍等の皮膚トラブルが起こっている。</p> <p>以前、A病棟では先行研究で、浸出液や栄養漏れ、圧迫が原因で皮膚トラブルを生じていた7名の患者に対し、化粧用パフを使用した除圧を行った。化粧用パフを使用した除圧方法は一部の患者に効果があり、皮膚トラブルは改善したが化粧用パフを使用したケアが継続するまでには至らなかった。その要因として、浸出液や栄養漏れがある患者には、直接皮膚に使用したパフが汚染し、除圧効果はあるが吸水性が弱く、汚染し直接皮膚に当たるため清潔保持ができなかった。また、スタッフ等での化粧用パフの管理が徹底できていないことも原因であったと考えられる。胃瘻チューブ挿入部の皮膚トラブルを予防する専用製品はなく、化粧用パフの他に代用できるものはないか検討した。</p> <p>院内のWOCナースより、在宅では胃瘻部の皮膚トラブルケアとして、吸水性が高く通気性に優れており、皮膚への刺激が少ないおりものシート(以下、吸収シートとする)を使用していると情報があった。安価で継続しやすい利点もある。高吸収シートは吸水性に富み、胃瘻漏れに使える材料であることを言われている。そこで、吸水性が優れている吸収シートと除圧効果のある化粧用パフを併用することで、皮膚トラブルが軽減できるのではないかと考え、今回研究として取り組むこととした。</p>			
審査結果	承認 (令和2年9月11日)		